

認定監理技師制度への期待と要望 —その6— 論説

既存の社会秩序や価値体系が揺らぎ、新しい秩序や価値の出現が待たれる危機の時代においては、多くの人々が古い偶像の崩壊を実感するようになります。

特に、真の価値を求め、正しい生の支えを見出そうと努めて止まない誠実な人たちにおいてこそ、この価値空洞化の実感により切実なものとなって追ってきます。

人類文化の目標は、水平化された幸福の実現にあるのではなく、あらゆる苦悩や圧迫などの逆境をもともせず独創的な世界を切り拓いてゆく、高貴で強健な個性の持ち主である「天才」の産出にある、とニーチェは論じています。

このような天才を産出するに際して、自然は、天才の内なる生産的エネルギーを一点に凝縮させてその浪費を防止するために、天才を過酷な生存条件の下に置き、彼の中に、この拘束から自由になろうとする渴望を惹き起こすように刺激します。このような自然の叡智に反して安穏な生活を整えようとするヒトの小賢しさは、却って生の本来の要求に反する邪道です。

従って、天才と理想国家は矛盾します。逆境こそが個人を鍛えて天才に仕上げるのです。安楽な生活を保障しようとする理想国家の理念は、雄大な知性や強力な個人が成長してくる基盤を破壊し、平均化された凡俗大衆を大量生産しようというものであって、軽蔑すべき思想であると言わざるを得ません。

筆者の任期も残り僅かになりました。この稿を書き進めるうちに検討会が議論を深め、単なる研修会とは異なるこの制度の骨格を具体的に提示してくれるものと期待していましたが、残念ながら今日に至るまで何の進捗もありませんでした。

総合監理技師制度は、凡庸なマニュアル人間の大量生産を目指すべきではないことを再度指摘しておきます。

■ 再度、リーダーシップ論

リーダーシップ論はもともと政治学の基礎概念の一つでした。昨今はリーダーシップに関する政治学からの言説が必ずしも目立たなくなり、その隙間を心理学や社会学が埋め、いまや経営学がリーダーシップ論の権威となってしまいました。

前回、初級監理検査技師認定取得を日臨技理事の必須要件にすることを提唱しましたが、来年度からの新執行部に対する要望の気持ちも込めて、合理論哲学を展開したマックス・ヴェーバー（ドイツの社会学・経済学者）のリーダーシップ論を紹介します。

彼は、「職業としての政治」という、死去する前年にミュンヘンのある学生団体に向けて行った講演の中で、政治とは何かと問うて、国家における「指導行為」だと述べています。つまり、ここには指導する者と指導される者が存在します。そして、国家とは、正当化された権力の独占に基づく支配と被支配の関係だと言えます。改めて言えば、政治とは、正当化された権力に基づいて、指導するものが他の者に対して支配と被支配の関係に立つ行為だということになります。

ヴェーバーは、支配の類型を3つに分けています。

第一は、伝統的支配で、これは、前近代的な伝統社会にしばしば見られるように、過去からの習慣、伝統を踏襲することによって支配を正当化するものです。

第二は、合理的支配もしくは合法的支配で、合理的に設定されたルールや法律にのっとった支配の正当化です。

第三はカリスマ的支配であって、指導者の個人的に類まれな能力、資質によって帰依させるという支配です。

ヴェーバー自身は、三番目のカリスマ的支配に最も関心を持っていましたが、同時に彼は近代社会が第二の合理的支配を基礎としなければ組み立てられないことを知っていました。ただ、そうは言っても、決して現代にあってもカリスマ的支配が消滅したわけではなく、むしろ大衆の感情の中にあるカリスマ願望は強力で、政治的リーダーには今日でもまだカリスマ的支配の側面がほとんど必然的に付随してくるといっても過言ではありません。

強い政治的リーダーに共通するのは、第一に、強力な信念を持っていること、第二に、ヴェーバーが述べている二つの民主主義（議会制民主主義と政党制民主主義）からすれば、政党の中での地位と大衆的な人気の両立です。

政党の中で有力な地位を占めていても大衆的な人気があれば強力なリーダーとはなれないし、また逆に大衆の人気ばかりが先行しても、政党の中での信任がなければ、これも強力な政府を構成することはできません。

そしてこの二つを両立させるという特異な能力とキャラクターを要求されるという点で、政党政治と議会主義の中でのリーダーは、大衆的な指導者民主主義のリーダーとは異なっているのです。

リーダーの個人的なカリスマ的資質がそのままリーダーシップに反映するのは、明らかに後者の大衆的な指導者民主主義制です。これに対して、政党政治と議会主義の中では、リーダーの個人的な資質は直接に国民の情緒に訴えるというよりも、党内での地位や実績によってチェックされることになると言えます。

政治は副業の政治家でも可能ですが、物心両面において一義的に政治で生きていく人々として職業政治家がいます。

職業として政治を行う場合は、政治のために生きるのか、政治によって生きるのかという問題があります。政治のために生きる政治家が成立するためには、十分な資産を持つか、他の手段で十分な収入がなければなりません。

つまり政治関係者が政治のために生活するためにはその報酬を保障しなければならないと、ヴェーバーは述べています。

職業政治家になるための資質の一つとしてヴェーバーは「権力感情」を挙げています。つまり他者を指導しているという意識や歴史的瞬間の一翼を担っているという感情によって非日常的な気分を味わうことができます。

しかし政治には特有の倫理的問題の領域があります。政治家にとって情熱、責任感、判断力の資質が特に重要です。問題となるのは、情熱や判断力を如何に自己組織化できるかということです。

政治には情熱が必要ですが、対象から適度な距離を保って観察する判断力も求められます。一面的では良い政治家たりえませんが、即ち、政治家はできるだけ衆目を集めようとする、虚栄心という致命的な気質を克服しなければなりません。

もしも為政者が、その政治倫理を自覚しなければ、政治的手法・政治的手段そのものによって自滅する危険性があります。

将来の危険が不可測であったとしても、その全責任を引き受け、道徳的にも屈服せず、政治倫理が悪行をもたらすものであると知る人間こそが、政治への天性を持っているとヴェーバーは結論しています。

古典の古典たる所以は、1919年の講演内容が90年間の時空を超えて、今なお私たちの組織の在り様に当てはまるということですから。

総合監理技師に理事コースができるとしたら、孔子、ヘーゲル、JSミル、マルクス、ロック、カント、ニーチェ……、その思想の一端くらいは学ばないとイケませんね。

あなたは技師会のために生きますか？ 技師会によって生きますか？

【金子健史】